

115 キジムナーと友達（イ）

ギジムナーというのは普通、木の精だといわれています。大木の精。そして、山原方面ではですね、国頭方面ではブナガヤーといっておる。今も生きておるということが証明されておりますがね。

このキジムナーというのがですね、やっぱり大きな木があつて、その木に洞があるつてね、この木に。ここにキジムナーが棲まっておたわけですよ。もしたら、誰かがこの木に、

「ああこりや、ギジムナー、こつちに棲まわせない」と言つて、釘を付けたらしい。そうしたら、もうキジムナーこつちに入れない、ということ。この釘をこの人抜いて、ありがとうという気持ちを持つて、ご恩返しをしなきゃいかん。そして、友達になつたと。そしてそのギジムナーが、

「あんたはそんな恩があるのに、あんたのことをやろう」と言つてね。その人がやっぱり漁師だつたんです

よね。

「わしも海に連れて行つてくれ。しかし、ただし条件がある。わしといつしよの場では、屁をひつてはいけない。屁をひつたらもう大変なことになる」ということを条件付けられたらしいんですよ。そして、これといつしよに行く場合にはとつてもお魚がよく取れて。これがもう毎晩のように行つたらうれしいんですよ。そして、この家は大金持ちになつたんですよ。

しかしもう、飽きがきたので、これはどうにかしてもう払わなければいけないということで、屁をひつてしまつたと。そしてそれと別れたと。そういう話があります。

取つてきた魚はね、調べてみたら片目が全部抜き取られておつた。

字与座 金城幸徳

類話

字糸満 野原由宗
字武富 大城トミ、長嶺京子、長嶺悦子

字北波平 長嶺光子
字阿波根 平田徳太
字兼城 大城ウシ
字豊原 国吉マツ
字与座 伊敷清保
字新垣 宮里栄吉
字糸洲 神里力マ
字伊原 玉城ハル